

Ⅱ 保育の在り方、幼児への対応

1

- ① 朝の登園時は特に視診を大切にして、幼児の体調が悪くないかを確認している。
- ② 体調が悪そうな時は、静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行い、すぐに家庭へ連絡している。

2

- ① 幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサイン、その姿の中にある心の動きを推察し、基本的欲求が十分満たされるよう配慮している。
- ② 一人の幼児をじっくりと見ながら、見えないところで活動したり遊んでいる幼児についても、ある程度その活動の様子を推察することができる。
- ③ 個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解できる。

3

〔心のよりどころとして〕

- ① 幼児一人ひとりを観察し、ありのままの姿を受入れ認めるようにしている。
- ② 幼児との温かなやりとりやスキンシップを常に心掛けている。
- ③ 幼児の話をよく聞くようにしている。
- ④ “一人ひとり”と“みんな”の関係を常に考え、クラス集団をまとめている。

〔遊び・活動の援助者として〕

- ① 幼児が遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している。
- ② 幼児をほめたり、励ましたり、めあてをもたせるような言葉かけをしている。
- ③ 禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせることばや態度はできるだけ控えている。

〔その他〕

- ① 幼児の家庭環境や、これまでの成育歴などを考慮しかかわっている。
- ② 障がい児が入園した時、個別対応やクラスの子どもとともに育ち合える保育を積極的に進めるように考えている。

4

- ① クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をしている。また情報を共有している。
- ② 指導上配慮を必要とする幼児については、園の保育者全体で特によく話し合い、共通理解をもって工夫し対応するようにしている。
- ③ 他クラスや異年齢の幼児たちと触れ合うよう、さまざまな工夫、保育の形態を取り入れている。

	1	2	3	4
1-①	92.0	8.0	0	0
1-②	96.0	4.0	0	0
2-①	52.0	44.0	4.0	0
2-②	28.0	68.0	4.0	0
2-③	4.0	92.0	4.0	0
3-①	76.0	24.0	0	0
3-②	84.0	16.0	0	0
3-③	76.0	24.0	0	0
3-④	20.8	58.4	20.8	0
①	20.0	76.0	4.0	0
②	64.0	36.0	0	0
③	36.0	48.0	16.0	0
①	72.0	28.0	0	0
②	50.0	41.7	8.3	0
4-①	52.0	44.0	4.0	0
4-②	32.0	64.0	4.0	0
4-③	36.0	52.0	12.0	0